

平成18年11月13日

周南市長 河村和登 様

熊毛地区地域審議会
会長 徳本



熊毛地区のまちづくりの課題について(建議)

周南市誕生から早くも3年が経過し、「私たちが輝く元気発信都市 周南」を目指すべき都市像に掲げた、まちづくり総合計画に基づき、周南市のまちづくりが着実に進められておりますことに、心から感謝と敬意を表します。

さて、本審議会は、昨年10月から第2期を迎え、審議会の設置目的でもある「各地区の均衡ある発展」を図るため、まちづくりに係る熊毛地区の課題を検討して参りました。その中で、コアプラザ熊毛建設事業と水問題を熊毛地区の緊急課題と位置付け、地域審議会内部にそれぞれの検討部会を設置し審議を深めてまいりましたが、この二つの課題につきまして、このたび本審議会としての協議がまとまったところでございます。

つきましては、徳山市、新南陽市、熊毛郡熊毛町及び都濃郡鹿野町の廃置分合に伴う地域審議会の設置に関する協議書第3条第2項の規定に基づき、本審議会の総意をもって建議いたしますので、何卒、特段のご配慮をいただきますようお願いいたします。

記

建議事項

「熊毛地区のまちづくりの課題について」

- ・コアプラザ熊毛整備事業について
- ・熊毛地区の水問題について

コアプラザ熊毛整備事業について

1. 本審議会における検討の経緯

「コアプラザ熊毛整備事業」は、法定合併協議会において合併時の確認事項として策定された「新市建設計画」の中でも、さらにその根幹となる「21のリーディングプロジェクト」の一つに掲げられた事業です。この地域核施設の整備は、旧2市2町各地域の「一体感を共有し地域がともに発展するまちづくり」を目指し、「地域の特性に応じた振興」を図り、「地域の均衡ある発展」を推進する事業と位置付けられており、その早期推進は本地区においても大きく期待されています。

こうしたことから、熊毛地区地域審議会では、平成16年10月にコアプラザ熊毛整備事業の早期推進について建議をいたし、さらに、本年3月には本審議会内部に11名の委員による「コアプラザ熊毛検討部会」を設置して、地区内のボランティア団体や文化サークル、障害者団体への聞き取り調査や、市内の各施設や近隣の類似施設の視察等を基に、検討を進めてまいりました。(資料1～3 参照)

部会での検討を受け、本審議会ではコアプラザ熊毛に求められる機能と具体的なスペースについて、次のとおり意見を集約いたしました。

2. コアプラザ熊毛に求められる機能

「21のリーディングプロジェクト」においては、コアプラザ熊毛整備事業の概要として、「保健・福祉機能、社会教育・生涯学習機能、図書館、産業支援機能、児童館など」が掲げられていますが、本審議会としても、熊毛地区に求められている機能を広く検討し、下記の機能を備えたコアプラザ熊毛の整備が必要であると考えます。

コアプラザ熊毛の機能

保健・福祉

社会教育・生涯学習

市民交流・市民活動支援

図書館

児童センター

産業支援

適応指導教室（あすなろ熊毛）

防災拠点

それぞれの機能の詳細は以下のとおりです。

3. 各機能の詳細

(1) 保健・福祉機能

熊毛地区においては、健康・栄養指導や健診など保健業務推進のための機能を有する保健センターや、デイ・サービス、機能回復訓練、障害児・者支援など福祉業務に関わる福祉センターとしての機能を有する施設が無いことから、保健・福祉の拠点施設を求める要望が強く、コアプラザ熊毛においては、最も重視すべき機能だと考えます。

特に、障害児・者支援施設については、バリアフリーや障害者用トイレを初め、活動の場に介助員や介助用品が必要となったり、身辺処理がうまくできず、身体の清潔を保つための衣服の着替えや洗浄等も必要となったりします。障害によっては危険なことへの認識も難しく、突然パニックを起こすこともあるため、施設の設備にはそうした配慮も必要となりますが、このような拠点施設が熊毛地区には無いため、利便性の悪い公民館等を利用せざるを得ない状況となっています。例えば、下松市の「ふくしの里」にある「サルビアの家」のような専用施設を新築し、障害児・者が生きがいを持って、地域で安心して暮らしていくための活動を支援していくことが望まれています。同時に、健常児・者と共に活動し、交流する場も有意義だと考えます。

また、子育て支援センター事業は、乳幼児を持つ親同士の情報交換等を通して母親の孤立化を防ぎ、子育てのストレス解消にも繋がることから、次代を担う元気な子どもを育てるための、重要な役割を果たしています。

現在、熊毛子育て支援センターは昭和47年に竣工された熊毛母子健康センター内に置かれておりますが、屋内遊具や児童図書も充実し、年間7,000人に上る多くの母子が地区内外から訪れ利用しています。しかし、施設全体の老朽化は深刻な課題であり、また乳幼児用トイレや屋外の遊び場の未整備、利用者の駐車スペースの不足等、活動の支障となっています。

そこで、当センターをコアプラザ熊毛に移し、三世代交流活動など多世代との交流活動や、砂場やすべり台等の屋外の遊び場も整備、活用することで、より一層の事業の推進が期待されます。

高齢化が進む中、健康を保持するための施策も重要です。寝たきりを減らし、医

療費を削減するための対策も望まれるところであり、健康器具や体調検査機器を集中的に備えた高齢者用のトレーニングルームを設置し、介護予防運動や体操指導を開設することや、「(仮称) なんでも健康相談日」を開催する等、健康に関わる気軽に細かな相談・指導の受けられる「健康相談ルーム」を設置することが望まれます。

なお、指導・助言には、保健師や健康インストラクターが常駐して対応できるよう、十分な体制の確立が必要です。

(2) 社会教育・生涯学習機能

現在の熊毛公民館は、昭和48年に竣工され、コンクリートの外壁が剥がれ落ちたり、雨漏りするなど老朽化が著しく、維持管理の面からも、熊毛公民館の機能をコアプラザ熊毛に移し、施設を廃止することが適切です。

現在、大会議室(174㎡)、視聴覚室(77㎡)、小会議室(28㎡)、講座室(63㎡:36畳)、調理実習室(68㎡)が、それぞれ1室ずつ使用されていますが、コアプラザ熊毛に機能を移す場合は、他の機能との共用や利便性を考慮し、室数や面積の拡大が必要だと考えます。

また、現在の調理実習室は流し台が広く、利用者から好評であり、コアプラザ熊毛におきましても、同程度の広い流し台や、火力の強い調理器具が切望されます。

なお、以前からスケートパークを要望する声が青少年から揚がっており、青少年の健全育成活動の一環と位置づけ、青少年の自主的な運営と活動を支援する体制を整えたスケートパークを設置することは、青少年教育の観点からも有意義です。

(3) 市民交流・市民活動支援機能

核家族化が進み、かつてわが国ではごくあたりまえとされてきた、「向こう三軒両隣」といった住民相互の連帯意識や相互扶助の気風が急速に衰えている昨今、周南地域のベッドタウンとして団地人口が急速に増加してきた本地区においても、地域住民の交流が希薄となっていることは否めません。人と人とのコミュニケーションを深め、温かく思いやりに満ちた相互扶助の機運を高めることで、住民の連帯意識を培うことが大切です。

また、熊毛地区を初め市内には多くのボランティア団体やサークルが多方面に渡って活発に活動をしておられますが、本地区には、これらの団体の活動拠点や他団体との交流の場がなく、その活動に支障をきたす場合が多々生じている現状です。

さらに、自治会活動やコミュニティ活動など、地域活動を支援するとともに、諸団体の連絡調整を密にすることで、活動の充実・強化を図ることは、本地区における大きな課題となっています。

コアプラザ熊毛には、市民活動支援のためのワーキングルームや各サークル専用ロッカー等を備えた「市民活動支援センター」の機能を置くことによって、個々の団体がより活発な活動を展開することが期待できると共に、ボランティア・コーディネーターにより各団体が有益に結びつき、また、ボランティア・バンクの運営により、人材の発掘や新たな活動の展開が期待できます。

とりわけ「団塊の世代」と言われる退職者をボランティア活動に受け入れたり、児童・生徒のボランティア活動の支援を行うための、ボランティア情報の受発信は重要な役割を担っています。

また、「三世代交流室」を設置し、囲碁や将棋などを初め、子どもから高齢者まで多世代が活動・交流できる場所が望まれます。母子健康センターで活動されている老人倶楽部竹細工教室活動の場もコアプラザ熊毛に移設し、三世代交流活動として幅広く交流が広がる中で、より充実した活動が進められることも、大変有益だと思われれます。

さらに、団体だけでなく、個人でも幅広く気軽に利用し、誰とでもお茶を飲みながら語れる、開放的なコミュニケーションの場所としての「ふれあい交流ロビー」の設置が望まれます。なお、生活交通の充実が望まれている中で、将来的には公共交通を活用するための連絡場所として、このロビーを利用することも期待されるところです。

(4) 図書館機能

現在の熊毛図書館は、専門書から週刊誌、CD、ビデオなどの幅広い蔵書をはじめ、インターネット、DVD、ビデオ、CD等の視聴ができる視聴覚コーナー、さらには熊毛図書館の特徴である「パードブックコーナー」などを有し、市内図書館相互

のネットワークも活用し、多くの市民が利用していますが、施設自体が 327.70 m² と非常に手狭であり、開架図書のスペースも狭く、また閲覧室や学習室、ミニシアター（視聴覚室）などがありません。

コアプラザ熊毛に設置する図書館には、乳幼児コーナーや学習ルームなど、幼児、学生、一般それぞれが利用しやすい環境が整備されることが必要です。

また、既存の「バードブックコーナー」の充実とともに、ボランティアを活用して、読み聞かせ活動の充実や児童・生徒対象の学習と読書の補助員を置く等、国語学習への支援機能を持つ特徴のある図書館とすることが望ましいと考えます。

図書の充実については、小・中学校図書室との連携・連絡を図ったり、また、家庭に眠っている本を集めるなど工夫することも考えられます。

なお、子どもや高齢者など交通弱者を考慮し、移動図書館や既存の公民館図書室の活性化を図り、地域図書館としての機能を充実させることも有意義です。

（５）児童センター機能

本地区においては、現在、放課後児童保育が４つの小学校区で実施されていますが、児童クラブの未整備地区や、中・高学年の児童を含めクラブに入れられない子ども、さらには日曜・祝日などにおける子どもの健全育成の場としての児童館活動が切望されています。

児童館については、子ども自身が歩いて通うことのできる小学校区単位での整備が適切であることから、公民館等を活用した児童館活動が望まれます。文部科学省が実施を検討している「放課後子ども教室」等の取り組みも、大きく期待される所です。

コアプラザ熊毛に有する「児童センター」には、IT社会に対応できる環境づくりとして、子どもがパソコンに親しむことのできるPCコーナーを初め、各校区の児童館活動でカバーできない機能を有し、また各小学校区で行われる児童館活動のセンター的な役割を果たすなど、地区児童館活動に携わる人々の交流・拠点施設としての機能も期待されます。

運営に当たっては、ボランティアの活躍も期待し、学年や性別を越えた、子どもたちの異年齢集団による自主的な活動を支援することが大切だと考えます。

具体的なスペースについては、「子育て支援センター」の休館日や午後の空き時

間の「親子プレイルーム」を「子ども活動室」と位置づけて活用することや、社会教育機能における「会議室」を兼用することが適切だと考えます。

(6) 産業支援機能

現在、特産品開発の活動が地道に継続されており、調理室に特産品開発の加工器具を置くスペースを設置し、活動の支援を図ることが求められています。

また、竹の増殖など山林の荒廃が大きな問題となっている中、竹林ボランティア等の活動を支援するとともに、竹炭や廃材の活用などについて、商品化を目指した産業支援活動の一環と位置づけ、専門的な技術を持っている人を講師に招いた講習会や、商品開発の活動を支援し、山林保全に繋げていくことも有意義だと考えます。

さらに、地場産センターとも連携し、産業に関わる情報収集や技術的な支援・指導の場を設定し、地元製造業の活性化を目指すことも期待されます。

(7) 適応指導教室（あすなろ熊毛）

現在、適応指導教室「あすなろ熊毛」は母子健康センター内で活動されていますが、教室の面積が狭い（約30㎡）うえ、日当たりも悪いなど、「適応指導」に適した施設とは言えないのが現状です。

児童・生徒数の増加も想定し、本地区の地理的な中心地でもあるコアプラザ熊毛に教室を移し、十分な広さと明るく快適な環境の下、中学校を初め三世代交流活動やボランティア活動等との連携を深め、適応指導活動を推進することが望まれます。

(8) 防災拠点機能

大雨や台風に伴う河川の氾濫や、地震等の災害対策の充実・強化は、市民の生命を守り、安心・安全な市民生活を営むうえで、極めて重要です。

地域核であるコアプラザ熊毛を、防災の拠点施設と位置づけ、防災の連絡調整や啓発、自主防災組織への支援を行うとともに、非常食や災害対応物品の備蓄基地と

することが望まれます。

また、災害時には熊毛地区における災害対策センターとして、消防団活動の拠点、災害情報の受発信場所として位置づけることが必要だと考えます。

以上、各機能について述べてまいりましたが、必要とされる具体的なスペース、広さは 別表のとおりです。

コアプラザ熊毛の機能大分類	機能中分類	必要となる具体的スペース	概要	望まれる広さ
保健・福祉機能	子育て支援センター	母子センター内の「子育て支援センター」を移設、充実させる。		
	① 親子プレイルーム	親子の交流、活動の場。担当職員の配置。	現状(約140㎡)より広いスペース	
	親子相談室	親も子も相談できる場所。カウンセラー等の専門家を招き、子育てや子どもの悩みを相談できる施設。	10㎡程度	
	幼児屋外遊技場	乳幼児が屋外で遊ぶことができる場所。すべり台、砂場等遊具を設置。		
	障害者支援	専用施設の建設が望まれる。		
	ふれあい活動ルーム	ふれあい体操教室・音楽教室等、活動を支援する場所。防音、強化ガラス整備。	現熊毛公民館 大会議室同等(180㎡)	
	ミニデイサービスルーム	ミニデイサービスの常時開催が可能な、障害者専用のスペース	現熊毛公民館 大会議室同等(180㎡)	
	障害者用トイレ	洋式トイレ、手すり、ウォッシュレット、温便座、子ども用便座、収納式多目的シート、自動ドア等	7.5㎡程度	
	シャワー室	排泄の失敗時に洗浄するシャワー、失敗した排泄物処理のための汚物流し等	5㎡程度	
	楽器専用倉庫	音楽活動で使用する楽器を収納する倉庫	20㎡程度	
	更衣室、給湯室			
	健康づくり			
	高齢者トレーニングルーム	健康器具や体調検査機器を備え、介護予防運動や体操指導を常設。保健師、健康インストラクター等が常駐。		
	健康相談ルーム	「(仮称)なんでも健康相談日」等、健康に関わる気軽に細やかな相談、指導の受けられる場所	10㎡程度	
	② 調理室	栄養指導、配食サービスの拠点。大きい流し台	現熊毛公民館 調理室と同等 (約70㎡)	
社会福祉協議会熊毛支部	事務室	社協の事務室、及びホームヘルパーの拠点	現状程度 (事務室65㎡、炊事場19㎡)	
	和室	炉の設置が必要	現熊毛公民館 講座室同等 (63㎡、36畳)	
社会教育・生涯学習機能	③ 大・中・小会議室	大会議室: 1室、中会議室: 2室、小会議室: 2室。	大200㎡、中80㎡、小30㎡程度	
	調理室	②を兼用		
	スケートパーク	スケートボード専用広場。青少年の自主的な運営と活動を支援		
	市民活動支援センター	「(仮称)周南市東部市民活動支援センター」と位置づける。		
市民交流・市民活動支援	ワーキングルーム	パソコン、プリンター、点字機器、コピー機、輪転機、紙折り機等を備えた作業場所	50㎡程度	
	ロッカールーム	各ボランティアサークル専用ロッカー。貸出基準を設け、自主的に運営。	30㎡程度	
	録音室	防音壁を施し、音訳活動等で必要となる録音機器を設置。	10㎡程度	
	サークル活動室	③を兼用		
	三世代交流室	囲碁・将棋等、個人が気軽に交流できる場所。子どもから高齢者まで幅広く活動、交流のできる場所。老人クラブ竹細工教室も移設 ※ 新南陽三世代交流センター多世代交流室と同程度 (120㎡)	※	
	④ ふれあい交流ロビー	自動販売機、丸テーブル。ボランティア団体を初め市民が気軽に交流できる場、ボランティア情報の受発信。		

コアプラザ熊毛の機能大分類	機能中分類	必要となる具体的スペース	概要	望まれる広さ
図書館	開架ホール	乳幼児や児童専用のコーナーなど、それぞれが利用しやすい環境の整備。	鹿野図書館開架ホール(約400㎡)と同程度	
	ハードブックコーナー	特色ある図書館として充実させる。	現在の蔵書を、より充実できる広さ	
	ミニシアター	プロジェクター上映	100㎡程度	
	読み聞かせルーム	ボランティアを活用した読み聞かせの会場	80㎡程度	
	学習ルーム	調べ学習ができる、学生を中心とした部屋	50㎡程度	
	ITルーム	パソコンによる情報収集や、CD・DVD等を活用した語学学習もできるスペース。 ※ 現状(インターネット閲覧パソコン席、DVD視聴席1席、CD視聴席1席)より充実	※	
	蔵書・資料庫	将来的な蔵書の増加を見込んだ、広いスペース。	現状(約50㎡)より、広いスペース	
児童センター	子ども活動室	①を兼用。(子育て支援センターが休業となる土・日・祝日、空き時間を活用)		
	子どもPCコーナー	子どもがパソコンを親しむことのできる専用コーナー	15㎡程度	
	会議室	③を兼用。		
産業支援	産業支援情報コーナー	④を兼用		
	調理室	②を兼用。特産品開発の活動の場。		
	加工器具置き場	特産品加工器具を置くスペース	10㎡程度	
	会議室	③を兼用。地元製造業を支援するための研修会や、竹炭や廃材の活用等の講習会など開催		
適応指導教室あすなろ熊毛	教室	母子センターから移設。明るく快適な環境	現在(30㎡)よりは広いスペース	
防災拠点	会議室	③を兼用。防災、防犯の連絡調整会議の場。		
	消防団活動拠点	③を兼用。災害時に熊毛地区の消防団活動の拠点とする。		
	防災情報コーナー	④を兼用。防災情報や、災害時の情報受発信の場。		
	備蓄倉庫	災害時の非常食、水、毛布等の備蓄。(屋内が望まれる。)	30㎡程度	

:兼用で利用するスペース

4. コアプラザ熊毛の管理運営

熊毛地区における既存諸施設の中で、母子健康センターと熊毛公民館の老朽化は大きな課題となっており、これら二施設の機能をコアプラザ熊毛へ統合・拡充し、既存施設の撤去と関係職員ならびに事務スペースの再配置による、維持管理経費の効率化を図ることが必要だと考えます。

また、ボランティア団体やデイ・サービス、地区社協等、福祉活動の大きな一翼を担う「社会福祉協議会熊毛支部」をコアプラザ熊毛内に設置し、保健福祉拠点施設として、より連携を深めると共に、当会にコアプラザ熊毛の管理運営を一部委託することも検討すべき事項です。

さらに、「コアプラザ熊毛整備事業」はハード面の整備だけでなく、施設を有効に活用・運営していくためのソフト面の充実が不可欠です。市民で構成される「(仮称)コアプラザ熊毛運営協議会」を設置し、策定と実施、発信、評価し公開するボランティア頭脳集団として活躍すると共に、市民と行政が「市民協働」で管理運営を行う体制づくりが望まれます。

5. コアプラザ熊毛の整備に当たって

「コアプラザ熊毛」は、これまで掲げた機能やスペースを持つ、多用途な機能を有する複合施設として整備されることが重要であり、施設の整備にあたっては、熊毛総合支所の空きスペースを「コアプラザ熊毛」の一部として有効活用することも視野に入れながら、新築又は増築することが必要不可欠です。

またその経費については、平成14年8月に開催された「第5回 徳山市・新南陽市・熊毛町・鹿野町合併協議会」の「追加資料」において、「コアプラザ熊毛整備事業」に対し、20億円の概算事業費が計上されております。借入期間が合併後10年間と定められている合併特例債の早急にかつ積極的な活用を図り、中心市街地の活性化だけでなく、「市域全体の均衡ある発展」のためコアプラザ熊毛整備事業を早急に進めることが、熊毛地区において強く望まれております。

多くの市民が集い、交流し、様々な活動が展開される中で、市民が行きたくなる、市民に愛される、名実共に熊毛地区の発展の拠点＝「コア」となる施設が、一刻も早く整備されることを切に願います。

熊毛地区の水問題について

水道は市民の日常生活に直結し、その健康を守るために欠くことのできないものであり、安全で安定した水の供給は、国及び地方公共団体の極めて重要な責務となっております。

熊毛地区では、地区全体の世帯数（約 6,200 世帯）のうち、団地を中心に半数を越える世帯（約 3,400 世帯）は、簡易水道が設置され上水の供給が行われております。またその他の在来地世帯では、各戸が地下水のボーリング等を行い、生活用水の確保を行っています。本地区では、水源を地下水に頼っている現状から、地下水脈の枯渇や在来地における戸々の井戸水の水質管理等が大変危惧されており、不安を感じている市民も少なくありません。

こうした現況から、「21のリーディングプロジェクト」において、本地区の住民福祉の向上を目的に「快適な水道基盤整備事業」が提起され、「水道未普及地域への水道施設整備」が策定されております。さらに「周南市まちづくり総合計画」でも、「特に熊毛地域の水道は、住宅団地単位の簡易水道であり、団地以外の地域は水道未普及地域であることから、安定した水源を確保し、水道基盤を整備することが急務の課題」とされるなど、水道基盤の整備は、本地区におけるまちづくりの緊急課題にもなっております。

おりしも、本年8月には、隣接する岩国市周東町西長野地区の小学校や民家の地下水からヒ素が検出される事態が発生し、大きな社会問題となっております。水質問題は決して他人事ではありません。

こうした現状を踏まえ熊毛地区地域審議会では、行政の重要施策として、国や県そして関係機関との協議を早急に進められ、熊毛地区住民の水問題への関心をより一層高め、市民と行政が連携し一体となって水道基盤整備事業を強力に推進されることを要望し、ここに建議致します。

<記>

1. 国や県、及び関係機関との協議により、熊毛地区における水道基盤整備事業の早期着手
2. 熊毛地区に水道事業が整備されるまでの対応として、
 - (1) 簡易水道給水区域における地下水位の適正な管理
 - (2) 水道未普及地域における水質検査の実施
3. 1項及び2項の施策の進捗状況について、熊毛地区住民への定期的な説明会の開催や市のホームページ等の活用による情報提供の実施

(以上)

<資料1>

熊毛地区地域審議会 「コアプラザ熊毛検討部会」の構成

部会長 村川 哲夫
副部会長 大山 超 (地域審議会 副会長)

部会員 久野 利夫
安松 和子
竹村 正美
青木 和代
中川 研一
大東 英夫
片山 靖子
小松 峯子
西村 照子

オブザーバー委員

徳本 豊 (地域審議会 会長)
山本 政一
手嶋 敏雄
丸山 和之

「コアプラザ熊毛」検討部会 審議の経過

期日(平成18年)	主な会議内容等
3月17日(金)	○平成17年度第2回熊毛地区地域審議会開催 「コアプラザ熊毛検討部会」と「水問題検討部会」の設置と構成を決定。 ○第1回検討部会 (1) 正副部会長の選出、 (2) 今後の部会運営について協議 月1回のペースで開催することを確認
4月26日(水)	○第2回検討部会 (1) 意見発表「コアプラザ熊毛の検討についての意見」 (2) 今後の進め方について 視察、市からの説明聴取、諸団体の情報収集・発表等
5月19日(金)	○近隣施設の視察(第1回目) 西部市民活動支援センター、三世代交流センター、富田東児童館、 下松市地域交流センター(ふくしの里)
5月31日(水)	○近隣施設の視察(第2回目) 熊毛子育て支援センター、鹿野図書館、熊毛公民館、熊毛図書館、 農協ビル
6月20日(火)	○第3回検討部会 (1) 保健、福祉の現状について(担当職員より概要説明) (2) 前回の建議内容について (3) コアプラザ熊毛に求められる機能について
7月11日(火)	○正副部会長 打ち合わせ 今後の運営について
7月27日(木)	○第4回検討部会 (1) ボランティア、サークル団体の現状と課題について ・障害者父母の会、杉の子会(点訳・朗読)の要望聞き取り ・委員の聞き取り内容発表(文化サークル、ボランティア団体) (2) ワークショップの開催
8月25日(金)	○近隣施設の視察(部会長、事務局) 岩国市 玖珂こどもの館
8月29日(火)	○第5回検討部会 コアプラザ熊毛に求められる機能と具体的なスペースについて
9月5日(火)	○第6回検討部会 コアプラザ熊毛に求められる機能と具体的なスペースについて
9月27日(水)	○部会長、地域審議会会長 打ち合わせ 建議案について
10月24日(火)	○平成18年度第1回熊毛地区地域審議会開催 建議案について協議

資料3 コアプラザ熊毛検討部会 視察状況

1. 西部市民活動支援センター



↑ サークル用ボックス



2. 三世代交流センター



↑ 乳幼児用トイレ

3. 富田東児童館



4. ふくしの里(サルビアの家、下松市地域交流センター)



↑ 心身障害児(者)デイ・ケアハウス「サルビアの家」



↑ 陶芸室



↑ 休憩販売・プレイコーナー





世代間交流サロン(高齢者コーナー・幼児父母コーナー)



↑ 伝統文化学習室



↑ 地域活動室



↑ 点字録音室



↑ 会議室

5. 熊毛子育て支援センター



6. 鹿野図書館



↑ ジュータンコーナー



↑ 研修室(読み聞かせ会場)



↑ 視聴覚室

7. 熊毛公民館



↑ 調理室(流し台が広く、使い勝手が長い)



↑ 外壁のコンクリートが老朽

8. 熊毛図書館



↑ 農協会議室を読み聞かせ場所に利用



熊毛地区地域審議会 「水問題検討部会」の構成

部会長 手嶋敏雄

副部会長 丸山和之

部会員 山本政一

オブザーバー委員

徳本豊 (地域審議会 会長)

～～～「水問題検討部会」審議の経過～～～

期日(平成18年)	主な会議内容等
3月17日(金)	○平成17年度第2回熊毛地区地域審議会開催 「コアプラザ熊毛検討部会」と「水問題検討部会」の設置と構成を決定。 ○第1回検討部会 (1) 正副部会長の選出、 (2) 今後の部会運営について協議
4月27日(木)	○第2回検討部会 水問題の現状について 意見交換
5月15日(月)	○光地域広域水道企業団議会 周南市選出議員との懇談会
5月25日(木)	○環境政策課との懇談
7月26日(水)	○第3回検討部会 学習資料の提供依頼に係る質問事項について
8月8日(火)	○環境生活部長にお願い文の送付 「熊毛地区の水問題に関する学習資料の提供について」
8月21日(月)	○環境生活部長より学習資料の提供
9月27日(水)	○第4回検討部会 建議内容についての協議
10月24日(火)	○平成18年度第1回熊毛地区地域審議会開催 建議案について協議